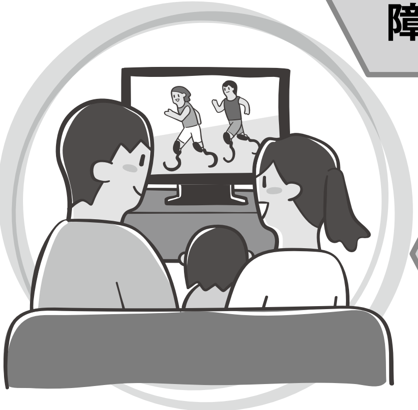
2022（令和4）年度

障害者スポーツを取巻く 社会的環境に関する調査研究

― 選手のキャリア、TV放送、選手認知度、テレビCF放送、ユニ★スポ体験の効果に着目して ―

第1章
障害者スポーツ選手のキャリア

第2章
テレビメディアによる障害者スポーツ情報発信環境調査



第3章
パラリンピアンに対する社会的認知度調査

第4章
テレビコマーシャルにおける障害者スポーツ調査

第5章
ユニ★スポ体験での児童の意識変容調査、ボッチャ教材活用事例

公益財団法人
ヤマハ発動機スポーツ振興財団
Yamaha Motor Foundation for Sports

はじめに

YMFS 調査研究

障害者スポーツ・プロジェクト・リーダー

藤田紀昭

ロシアがウクライナに軍事侵攻する中で、冬季パラリンピック北京大会が開催された。日本は金メダル 4 個を含む 7 個のメダルを獲得した。メダルランキングは 9 位。2006 年の冬季パラリンピック以降、日本の金メダル数は 3～4 個である。軍事侵攻を受けているウクライナは人口約 4 千万人、北京大会では金メダル 11 個を含む 29 個のメダルを獲得し、メダルランキングは開催国、中国に続く 2 位であった。人口だけでなく、国土の広さや気候、政治体制、GDP 様々なものがオリンピック、パラリンピックのメダル数に影響していると言われている。

日本における障害のある成人の週 1 回以上スポーツをしている人の割合は約 3 割、ここ数年で徐々にではあるが実施率が上昇してきている。一方でスポーツを過去一年全く実施していないという障害者が約 4 割いる。この割合を下げ、スポーツする人を増やすことが、遠回りではあるが、パラリンピックにおけるメダル獲得を増やす道であるように思われる。

本研究プロジェクトは障害者スポーツの社会的実態を明らかにし、障害者のスポーツ環境を改善していくための基礎資料を提供すべく、2012 年から研究を開始し、11 年目を迎えた。この間実施した調査研究は表に示した通りである。今年度は、障害者スポーツ選手のキャリア調査、テレビメディアによる障害者スポーツの情報発信環境調査、パラリンピアンに対する社会的認知度調査、テレビコマーシャルにおける障害者スポーツ調査、ユニスポ体験での児童の意識変容調査、ボッチャ教材活用事例について報告を行う。

	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
大学における障害者SPの現状	○		○		○	○	○	○			
パラリンピアンのスポーツキャリア		○									
障害者スポーツ選手のスポーツキャリア								○	○	○	○
コロナ禍におけるアスリート活動状況									○		
パラリンピック指導者の現状		○									
障害者スポーツ競技団体活動		○					○				
障害者SP選手発掘育成システム			○								
パラリンピアンの社会的認知度			○		○		○			○	○
ジャパラ選手のスポーツキャリア				○							
パラリンピックTV放送					○					○	○
地域現場の実態						○	○	○			
障害者SP関連CF状況						○					○
チャレンジ！ユニ★スポケーススタディ								○	○	○	○

第 1 章　障害者スポーツ選手のキャリア調査では新たに実施したインタビュー11 人分の報告と、今年の 11 人を含む 2019 年から実施した 50 人分の調査の中間報告を行っている。第 2 章　テレビメディアによる障害者スポーツの情報発信環境調査では、北京冬季パラリンピック大会のテレビ報道量について報告している。第 3 章　パラリンピアンに対する社会的認知度調査では冬季パラリンピック選手の社会的認知度について報告した。第 4 章　テレビコマーシャルにおける障害者スポーツ調査では障害者スポーツ選手を起用したテレビコマーシャル本数について報告している。第5章　ユニスポ体験での児童の意識変容調査では障害者スポーツを体験した児童の意識変容についての報告に加え、（公財）ヤマハ発動機スポーツ振興財団が全国 60 校に提供したボッチャボールセットの利用状況についての事例報告も行っている。

調査にご協力いただいた多くの皆様に心より感謝いたします。次年度以降も引き続き、諸調査を実施する予定です。今後も本調査プロジェクトの活動に対してご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

■目次

はじめに　1

第 1 章
障害者スポーツ選手のキャリア調査
概要　8
キャリア調査インタビュー一覧　10
選手別インタビュー　14
50 人のパラアスリートのインタビュー調査から　54
2019～2022 年のキャリア調査インタビュー一覧　60

第 2 章
テレビメディアによる障害者スポーツ情報発信環境調査
調査概要　64
要約　66
調査報告　67
1　メディア放送時間（単純集計）　68
2　メディア放送時間（クロス集計）　78
3　北京大会日本代表選手別の放送時間　87
4　まとめと考察　89
コラム　ロシア・ウクライナ問題について考える　92

第 3 章
パラリンピアンに対する社会的認知度調査
調査概要　96
要約　98
調査報告　99
1　パラリンピアンの認知度　100
2　パラリンピックの観戦　101
3　障害者スポーツとの接点　106
4　クロス集計　109

５ まとめと考察 113

第4章
テレビコマーシャルによる障害者スポーツ情報発信環境調査
① 障害者スポーツ関連のテレビコマーシャル実態調査 116
② パラアスリート起用のテレビコマーシャル実態調査 121
コラム プロアスリート・国枝慎吾選手が残した功績について考える 126

第5章
ユニ★スポ体験での児童の意識変容調査
１ チャレンジ！ユニ★スポについて 132
２ プログラムの特徴 132
３ 調査目的 132
４ 調査方法 133
５ 今後の課題 143
６ まとめ 144
ボッチャの展開事例紹介 145

附録1 パラリンピアンに対する社会的認知度調査 調査票 159
附録2 パラリンピアンに対する社会的認知度調査 集計表 165
附録3 ユニ★スポ調査票 171

■障害者スポーツ・プロジェクト

リーダー	藤田紀昭	日本福祉大学スポーツ科学部	教授
メンバー	小淵和也	(公財)笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所	政策ディレクター
	河西正博	同志社大学スポーツ健康科学部	助教
	齊藤まゆみ	筑波大学体育系	教授
	河合純一	(公財)日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会	委員長
事務局	大庭義隆	(公財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団	